

大麻—国際情勢と精神科臨床—

特集にあたって

松本 俊彦

編集子がこれまで薬物依存症専門外来で出会ってきた大麻関連問題の患者は、ざっくりと3つのタイプに類型化できる。第1に、会社員などとして一見適応的な社会生活を送りながら、週末だけリラックスするためにジョイント（大麻煙草）を喫煙するというタイプ、第2に、ミュージシャンやサーフショップ経営者など比較的自由の利く職業で生計を立てながら、20年以上の長きにわたって、それこそ煙草感覚で、毎日昼夜を問わず日に何本もジョイントを吸ってきたというタイプ、そして最後に、一定期間大麻使用を続けた後に幻聴や妄想などの精神病症状が出現し、大麻使用をやめてもそれが持続するようになり、その治療を求めて来院するタイプだ。

大麻の使用頻度や使用期間こそ大きく異なるが、最初の2つのタイプには共通点が多い。まず、大麻取締法違反による逮捕を契機として弁護士の指示で受診している、ということである。要は、減刑狙いの法廷戦略としての専門外来通院であり、逮捕されなければ、そもそも精神科とは縁のなかつた人たちだ。

実際、この2つのタイプの患者には、精神症状らしきものが全く見当たらない。それから、覚せい剤の使用障害患者によく見られるような、渴望に翻弄されて薬物生活に陥り、無断欠勤やドタキャンを繰り返すこともない。もちろん、アルコール使用障害患者のような内臓障害もなければ、酩酊時の暴力行動もない。何より特徴的なのは治療転帰だ。大麻に厳しいわが国の法制度に不満を漏らしつつも、彼らはさしたる苦勞もなく大麻をや

め、1年程度で治療終結となってしまう。

一方、第3のタイプとの治療関係は年余に及ぶことが多い。その統合失調症に類似した慢性的な状態像を「大麻後遺症」と捉えることもできない。しかし、彼ら的大麻の使用頻度や使用期間は、たとえばヘビーユーザーである第2のタイプに比べれば取るに足らない程度だ。多くは、大麻使用以前から風変わりな人物として知られていたり、親族内に臨床遺伝学的負因が認められたりと、脆弱性を示唆する要因がある。そして、不安や抑うつ気分などの心理的苦痛への対処として大麻を用いてきた経緯があり、治療経過中にも種々のストレスをきっかけとして大麻使用を再発する傾向がある。

日々の診療のなかでこの3タイプの患者に会っていると、編集子は自分の大麻に関する無知を思い知らされるのだ。もちろん、大麻は無害などというつもりは毛頭ない。ただ、その健康被害にはどうやら個人差があり、個体側の要因を無視するわけにはいかない。いまや編集子は、かつてのように、学校の薬物乱用防止教育で、「大麻に1回でも手を出すと人生は破滅する。だから、『ダメ。ゼッタイ。』」などと無邪気に話すことはできない。生徒を騙しているという罪悪感に苛まれてしまうからだ。

私たちは大麻について多くを知らない。わが国の精神科医のあいだで共有されてきた知識でさえも、その大半が稀少症例の経験に基づく不正確で歪曲されたものである可能性が高い。それは、私たちの勉強不足のせいではない。思えば、米国は

長きにわたって大麻を「スケジュールI」という最高度の規制対象に位置づけ、研究目的での使用さえも制限して「パンドラの箱」が開かれることがないように封印を守ってきた。あるいは、大麻を「Gateway Drug」と位置づけ、「よりハードな薬物に対する入門的薬物となる」という、健康被害とは別軸の理屈を駆使して規制を正当化してきたのだ。

しかし、今日ではそうした見解や政策の効果についても否定されている。むしろ様々な研究は、大麻のような比較的ソフトな薬物を規制することが、より危険な脱法的薬物の流通を促し、反社会的組織に巨利をもたらしたことを明らかにした。今日、大麻の娯楽的使用解禁や、医療用大麻の承認といった国際的な潮流は、こうした研究知見の蓄積と無関係ではない。そしておそらくこの潮流は、ごく近い将来、日本にも押し寄せてくるだろう。私たちは大急ぎでその日に備え、大麻に関す

る知識をアップデートしておかねばならない。

本特集は、諸外国における大麻規制の状況や、大麻解禁が社会に与えた影響など、最新の国際的動向を伝えるとともに、大麻をめぐる行動薬理学、疫学、臨床精神医学、社会学という広汎な領域の最新知見を整理することを目的として企画された。いずれも各分野の第一人者による珠玉の論考であるが、なかでも薬物規制と政治、あるいは差別問題との関係を指摘した佐藤論文は、精神科医療関係者必読の論考である。これを読めば、医療者といえども、政治的に歪曲されたプロパガンダの影響から自由ではない可能性に気づかされるだろう。

編集子は、本特集が、大麻関連精神障害とその周辺領域に関する、現時点で望みうる最も新しく、詳細な日本語文献であると自負している。本特集が、読者の精神科臨床に役立つことを願ってやまない。